

## 熊本県山鹿市

### 【活動概要・効果】

#### ☆芝居小屋と町並み伝統文化を伝える都市

〇市の文化振興と活性化の核となる八千代座の復興をはじめ、まち歩きツアーを行うボランティアガイドの結成、山鹿灯籠浪漫・百華百彩の開催において、歴史や伝統文化を大事にしながら、大学との連携等、時流に応じた新たな取り組みを積極的に実践し、それらを融合させた地域づくりを行っている。

☆八千代座復興の他、保存されている約70棟の伝統的建物のうち、44棟が現在までに修景され、歴史的まちなみの保存がなお続けられている。

☆地域づくりにおいては、市内の大学、地元商店街、地域住民が主体的に斬新なイベントの企画を展開している。

☆八千代座周辺商店街では、空き地空き店舗への新規出店についても、市の積極的支援により、平成9年度からの10年間で延べ50軒の出店があり、また、廃業した酒蔵を駄菓子屋として再生し、地元の子どもたちを集めるなど、観光地としての取り組みだけでなく、生活感のある生きたまちなみづくりに取り組んでいる。



新酒祭り

#### 《人員確保での工夫・苦労》

①八千代座でのイベント実施には、多くの人材が必要となる。山鹿市等主催イベントでは、受付や館内の案内業務をボランティアに頼っている（八千代座ボランティアといい、現在約20名が会員登録している）。今後は、音響照明や舞台製作などを手伝えるボランティアを養成する方向である。

②山鹿灯籠浪漫・百華百彩は、毎年灯りの数が増えるに従い、マンパワーも必要となっている。そこで、当初は観光協会が中心となって実施してきたが、地元商店街や崇城大学、地域住民、行政などで組織する実行委員会を立ち上げ、より多くの皆様が祭りに参加できるように取り組んでいる。

③まちなみ整備をより効果的に進めるためには、沿道住民と行政の間で、公平な立場と専門的な技術を有する組織をつくる必要がある。

#### 【現場の声】

①八千代座は、平成の大修理後多くの観光客が見学を訪れ、また、坂東玉三郎舞踏公演や松竹大歌舞伎をはじめとした催しにも使用されている。一方、地元では踊りの発表会や小学生の演劇発表会など、市民団体の利用も活発である。「観光客等を対象とした見学」と「貸し館としての利用」の2つの利用形態があり、すみわけが長年の課題であった。そのため、使用料条例の見直しや八千代座の見学ルート（舞台裏見学）などを新たに設けた。

②米米惣門ツアーでは、案内の質を高める協議を定期的に行い、反応が良かった話題や団体の特性に応じた案内など、お互いの経験を話し合い、効果的な案内を常に探っている。

③まちなみ整備の課題の一つに改修レベル（改修内容の統一感）の差があげられる。豊前街道沿道の修景について、統一的な方向性の意識が沿道住民に薄いため、官民協働で指針を策定し、専門家を含む第三者機関等を中心に運用できる仕組みづくりが必要である。

～山鹿市役所企画課

#### 《活動資金確保での工夫・苦労》

①八千代座でのイベント実施では、自主事業等でできるだけ資金を確保するために協賛金を多くの企業や団体から募っている。

②山鹿灯籠浪漫・百華百彩は、灯りの数が増え続けることにより、ろうそく代など灯りに関連した経費が莫大となり予算を圧迫している。熊本県の支援等により資金確保に努めている。



八千代座